楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成

合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第15号

令和5年(2023 年)12月8日
文責 校長 佐藤 政臣

人権月間についてパート③

わたしのせいじゃない

絵本 「わたしのせいじゃない ーせきにんについてー」 より

本号では、先号でお知らせした通り、１年生から４年生までの「縦割り人権集会」の様子を掲載する予定でした。

しかし、２年生が学年閉鎖（インフルエンザのため）となったため、「縦割り人権集会」が延期になりました。

そこで本号では、スウェーデンのレイフ・クリスチャンソン著「わたしのせいじゃない ーせきにんについてー（岩崎書店）」という絵本を紹介したいと思います。

その本の翻訳者（二文字 理明 大阪教育大学名誉教授）のあとがきには、次のように書かれています。

あとがき

この本はスウェーデンで生まれたシリーズの１冊です。原著はすでに１５冊以上がロングセラーで刊行され、一般書店の他、デパートのギフトコーナーにも置かれています。

広い意味での「人間の生き方」を扱い、日常のふとしたきっかけから深い思索を誘うタイプの内容です。

このシリーズの背景にはスウェーデンの学校で行われている「オリエンテーリング科」という教科があります。人間の生き方を模索しながら、同時に社会の様々な問題にも目を向け、友情、孤独、幸福といった人間関係の大切なテーマが扱われています。

「わたしのせいじゃない」は、このシリーズのなかでもやや特異なシリアスな内容を備えています。いじめの状況と、その責任のなすりあいが描かれ、後半の写真（長崎に投下された原爆、ソマリア難民の子ども、少女を抱きかかえる米兵、タンカー事故で流出した油にまみれた海鳥、先進国のゴミ捨て場、リベリアの少年兵）は、多くのことを語りかけてきます。

日本でも「いじめ」は深刻な社会問題になっています。事態を改善するために話し合うきっかけとして、教室で、家庭で、この本が生かされることを心から願っています。

引用：スウェーデンのレイフ・クリスチャンソン著「わたしのせいじゃない ーせきにんについてー（岩崎書店）」p. 24

この本は、**「学校の教室で、ひとりの男の子が泣いています。いったいどうしたのでしょう。」**という文からスタートします。

それに対して、**「学校の休み時間にあったことだけでわたしのせいじゃない」・・・・「ほんとうはわたしみたのだからしっているの でもわたしのせいじゃない」、・・・・「おおぜいでたたいた みんなたたいた ぼくもたたいた でも ほんのすこしだけ」・・・・などといって、責任を転嫁し「わたしのせいではない」**と締めくくられます。いじめやその責任について考えるきっかけとして親子で読んで、「あなたならどうする？」などと具体的な行動を考えてみてはいかがでしょうか。

第 73 回“社会を明るくする運動”合志市作文コンテスト優秀賞

１２月２日（土）、御代志市民センター講堂において、「令和５年 合志市青少年育成市民会議 青少年教育特別講演会」が開催され、弁護士の大津秀英さんが講演されました。講演会のテーマは、「子ども（保護者）が問われる法的責任」です。

講演は、具体的な判例等を用いて説明されたため、わかりやすい内容でした。

その会の前に、「第 73 回“社会を明るくする運動”合志市作文コンテスト」の表彰式があり、合志楓の森小学校からは、４名中、２名も表彰されました。

優秀賞 「『おかげさまで』にあふれる社会」
６年 石田 日向子 さん
優秀賞 「１００まいの羽がおちる前に」
５年 橋口 あかり さん

私も読ませていただきましたが、その人にしか書けない、心に訴えるすばらしい作文でした。受賞おめでとうございます。

楓の森小 HP
学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧下さい
https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/